

経緯

- 富士山周辺には、登山者だけでなく山麓地域にも多数の施設を有し、インバウンドを含め年間3,000万を越える観光客が来訪している。
- また、「富士山火山広域避難計画」では噴火警戒レベルに応じた観光客の避難のタイミングは定められているが、観光客数や避難経路、避難にかかる時間等の事項が記載されていない。
- そこで、平成29年度から富士山火山防災対策協議会として、内閣府との協働検討事業に参加し、観光客の避難計画策定に向けた検討に取り組みを実施した。



実施状況

- 山梨・静岡県及び市町村の担当者によるワークショップ形式の検討会を3回実施(12月(2回)、2月)
- ワークショップでは、集客施設の洗い出しや観光客の避難行動を想定した避難経路等について議論し、その結果に基づき、**想定観光客数や避難路における交通状況の推計**を行った。
- これらを基礎資料として、避難開始のタイミングや観光客への情報提供についての考え方を整理した。

計画策定における検討項目および今後の予定

平成29年度

- 観光客の避難対応における基本的事項
 - 観光客の特徴
 - 火山活動の状況に応じた観光客対応
- 観光客数(避難対象者数)
 - 日中/夜間
 - 外国人観光客数
- 避難経路
 - 避難経路
 - 避難車両台数と避難に要する時間
- 観光客への情報提供
 - 提供・伝達すべき情報
 - 情報伝達手法

平成30年度～

- 防災体制
 - 避難に関する情報の共有
 - 観光客の避難対応の判断
 - 避難誘導
 - 火山活動の状況に応じた避難誘導
 - 夜間における対応
 - 誘導方法
 - 交通規制
 - 交通規制箇所
 - 輸送支援
- 等

とりまとめ結果を富士山火山広域避難広域避難計画へ反映

付属する資料(案)

- 観光客数想定手法
- 観光施設等一覧
- 富士山周辺の観光資源・宿泊容量地図
- 避難時間の想定手法
- 基本広報文例集
- 外国人観光客用フレーズ集
- 観光客避難対応マップ